

第3学年7組 道徳指導案

- 1 主題名 正しい異性理解〔内容項目B－(8)：友情、信頼〕 (2時間完了)
(資料名 「アイツの進路選択」 出典：自分をのぼす(あかつき))

2 ねらい

交際相手の進路選択が自身の影響を多分に受けていることに戸惑う主人公の気持ちに寄り添い、二人がよりよい男女交際を目指すためにはどのようにしたらよいかを考えることで、異性に対する理解を深め、相手の人格や考えを尊重し、お互いが高め合えるように努力したいという道徳的心情を高める。

3 ねらいとする道徳的価値

中学生は思春期であり、異性への関心が非常に高まる時期である。保健体育の授業で性に関する指導を進めているが、テレビやインターネットでは、情報が氾濫しており、生徒もそれらからさまざまな性に関する知識を得ている。また、LINE等のSNSを利用して、簡単に異性と交流することができる社会になってきている。男女間における関係は、それが友情に基づく場合でも、恋愛感情に基づく場合でも、相手に対する理解を深め、信頼と敬愛の念をはぐくみ、互いに向上していくものでなければならない。異性に対する関心が高まることは成長していく上で自然の流れであることを踏まえながら、異性のもつ見方や考え方を知ったり、見直したりするような心がけをするきっかけとしたい。異性の特性や違いをきちんと受け止め、相手の人格を尊ぶ姿勢を身につけさせたい。

4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

(1) 学級について

本学級は、男子17名、女子18名、計35名の学級である。1学期の修学旅行をきっかけに男女の仲が深まり、一部の生徒は1学期から男女交際をしている。休み時間になると男女混合グループで話をしたり、放課後に一緒に勉強をしたりする姿が見られ、ほほえましくもあるが、その一方で、男女交際をしていることで、自分たちが学級内の優位な立場であるにとらえているような雰囲気がある。中学生が異性に興味をもったり、男女が互いにひかれ合ったりすることは自然なことであると認めながらも、交際していく上ではその場の楽しさや、相手のことが好きという感情だけでは成立しない。男女がお互いを尊重し合ったり、思いやったりすることが異性を理解していくうえで大切であることに気づかせたい。

(2) 抽出生徒について

①抽出生徒Aについて

Aは明るく活発で人当たりもよく、部活動の部長や委員長の役割に責任をもって取り組むことができた。3年生になってからは進路を意識して、塾に通い始め、授業や家庭学習によりいっそう力を入れている。同性の友達が多いAであるが、異性への興味はあまりないように感じる。だれに対しても優しい気持ちで接することのできるAであれば、現在は男女交際の経験がなくとも、異性を思いやったり、尊重したりする考えをもつだろう。この先Aが特定の異性と親密になった時に、異性の意見や考えを尊重しつつも、自身の意思表示をしていくことで、よりよい男女交際が成立していくことに気づかせたい。

②抽出生徒Bについて

本学級の男子生徒と交際を始めてから、より朗らかになり、一見充実した生活を送っているように見える。ところが、成績が伸び悩んだり、LINEで二人の付き合いの様子を安易に吐露したために周囲の好奇の目が気になったりして、突然泣き出すなど感情の起伏が激しくなった。また、男女交際をしていない級友をさげすむような見方をしており、同性の心は離れている。両親も二人の付き合いをよく思っておらず、家庭内で母親とぶつかり合うことがあるようだ。本時の中心発問、「二人が今後うまくやっていくには真一はどうすべきだろう」に対して、「夏樹のし

たいようにすればいい。真一はそっと見守ってればいい。」という考えをもつことが予想される。そこで、「それは夏樹のためになるの？」という問い返しをしたり、資料とじっくり対話させたりすることで、異性と交際する上では、お互いが高め合えるような努力や配慮が必要であるということを感じさせたい。

5 資料について

(1) 資料の概要

中学3年生の真一と夏樹は、幼なじみで、1年生の中頃から付き合っている。その二人が、進路選択という大きな壁に直面する。真一は、1学期の進路希望調査では深く考えずに、部活の先輩が通っている近くの北西工業高校を書いた。しかし、2回目の進路希望調査提出にあたっては、本当にその学校でよいか迷っていた。夏樹は、真一と同じ高校に行こうと約束していたので、今回も北西工業高校に決め、真一も同じ高校を書くものだと決めつけている。自分のやりたいことが定まっていなかった真一は、迷った末に水明高校の普通科に決めたことを夏樹に話した。その後、夏樹が志望校を水明高校に変えたと、夏樹の母から電話で相談される。夏樹が自分を思う気持ちがずっしりと重くのしかかった真一は、言いようのない不安と戸惑いに襲われる。

(2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

①資料との対話をさせるための手だて

生徒がじっくりと資料に向き合うことを目的として、2時間完了とした。第1時では、生徒の異性に対する関心の度合いや、恋愛観などにじっくりと耳を傾ける。また、資料を読み、初発感想を書かせる。第2時には、資料の内容を振り返りながら、夏樹が真一の進路に影響されて進路変更をした場面の真一の思いを考えさせる。ここで、真一が夏樹のことは大切に思っているが、このままの状況ではお互いによくないと気づいたことをとらえさせる。その後、二人がよりよい男女交際を続けていくことを前提として、中心発問について考えさせる。ワークシートに考えを書かせる際には、机間支援で朱書きを入れることで、個の考えを深めさせる。さらに、異性に関することを全体の場で発表することに抵抗感をもつ生徒がいることを考慮し、真一と夏樹のそれぞれの気持ちに寄り添いながら考えさせることで、羞恥心を軽減させる。男女交際をしていく上では、真一、夏樹のそれぞれの思いだけでは成立しないことがわかるだろう。

②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

真一と夏樹の二人がうまくやっていくためにはどうしたらよいかについて具体的に考えさせるために、「何について話し合うの?」、「どのように説得するの?」のように、焦点化できるような補助発問をすることで、生徒自身の考えを深めさせ、話し合いの活性化を図る。また、夏樹を尊重しない意見に対しては、資料に立ち返らせたり、問い返しの発問をしたりして、生徒の考えをゆさぶったり、話し合いを軌道修正したりする。さらに、「男女交際において相手のことを大切にするとはどういうことだろう」と発問を投げかけることで自分自身について考え、自己内対話を深めさせる。終末では、困難を乗り越えながらお互いを心から思いやることで結婚に至った男女の話を、教師が説話として語ることで、男女交際について考えたり、異性への理解を深めたりさせる。

6 板書計画 (次々ページ参照)

7 指導計画

第1時: 理想の異性について話し合う。資料を読んで感想を書く。

第2時: お互いが理解し合い、信頼し合った上での男女交際のあり方について考える。

8 本時の展開 (本時2/2)

(1) ねらい

真一の気持ちを考え、生徒自身が考えを深める活動を通し、異性に対する理解を深め、相手の人格や考えを尊重し、お互いが高め合えるように努力しようとする気持ちを高める。

(2) 授業過程

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
5	<p>○あらすじを確認する。</p> <p>夏樹の進路変更を知った真一はどう思ったのだろう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">自分の進路に合わせてもらって申し訳ない。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">まさか夏樹が進路変更するだなんて、おどろいた。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">夏樹の気持ちうれしい。</div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">相談せずに変更してしまってよかったのかなあ。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">夏樹の決めたことだからしょうがない。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">夏樹の進路選択に戸惑う。このまでいいの不安。(①)</div> </div>	<p>※夏樹が真一の進路に左右されて進路変更をしたことと真一がそのことに戸惑っている状況を、第1時の感想で真一の気持ちの理解が深まっている生徒を意図的に指名して、理解が深まっていない生徒に気づかせる。 (①C:気づかせる)</p>
20	<p>○相互指名で話し合う。</p> <p>二人が今後うまくやっていくには真一はどうすべきだろう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;">お互いの将来の夢について語り合う。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;">先生や親に悩んでいることを相談する。</div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;">二人が納得できるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;">いっしょに普通科の水明高校に行こうと言う。(③)</div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;">二人のこれからのことについて、話し合うべき。(②)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;">夏樹とは別れる。高校に行ったら新しい彼女ができるかもしれない。(④)</div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;">電話やメールではなく、きちんと顔を見て、夏樹を説得する。(②)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;">夏樹の考えは否定せずに、受け入れるようにする。</div> </div>	<p>※より多くの意見を出して考えを深めさせるために、相互指名により意見を発表させる。</p> <p>※真一と夏樹が何について話し合うのか、真一は夏樹をどう説得していくのかを問い返すことで、二人にとって大切なことは何かを明確にする。(②C:焦点化する)</p> <p>※夏樹の将来や考えを尊重できていない抽出生徒Bの意見に、「それは夏樹のためになるの？」と問い返したり、資料に立ち返らせたりして、Bをゆさぶる。(③E:ゆさぶる)</p> <p>※「夏樹と別れる」という意見が出された場合は、二人はお互いの存在を大切に思っていることを確認する。(④D:軌道修正する)</p> <p>☆二人がよりよい関係を築けるだけでなく、夏樹の意見を尊重する考えをもてたか。(発言、ワークシート)</p>
35	<p>男女の交際において、相手のことを大切にするとというのはどういうことだろう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">互いの思いや考えを隠さずに話し合うこと。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">なんでも相手に合わせてしまうのではなく、悪いことは悪いと言えること。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">いっしょにいても離れていても、いつでも相手の立場になって考えること。</div> </div>	<p>※うなずきながらどの意見も認めることで、異性を大切にしていこうとする姿勢が必要であることに気づくようにする。</p>

○教師の説話を聞く。

先生の友達は今年の7月に交際11年目で結婚しました。11年の間に、けんかをしたり、一度は別れてしまったりしたけれど、二人で乗り越えてきました。友達は、彼の仕事が忙しくて、結婚式の準備が進まなくても文句を言いませんでした。一途に彼のことを思う愛の深さや、優しさを見習いたいという話をする。

※説話を通して、お互いを大切にしよう関係のすばらしさにふれさせることで、温かい雰囲気をつくる。

45 ○振り返りをする。

男女交際をしていく上で、相手の人格や考えを尊重し、お互いが高め合えるように努力しようとする気持ちを高める姿。

※振り返りの際、机間指導で抽出生徒Aのところいき本時を通して異性について考えを深めたか、まわりの人の意見を聞いてどう思ったかを問いかけ、ワークシートに記入するように声をかける。

☆異性を理解しようと努力したり、お互いを尊重し合ったりしていこうとする心構えができたか。

(発言、ワークシート)

授業の視点

- ① 発問は、自分自身の異性観を見つめ直したり、異性にを大切にしていこうとする心情を育むうえで有効であったか。
- ② ②C、③Eにおける教師支援は、真一と夏樹の気持ちに迫り、生徒が異性を理解しようと努力したり、お互いを尊重し合ったりしていこうとする気持ちを高めるうえで有効であったか。

板書計画

